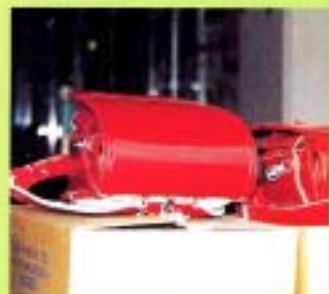


明日の防災の担い手・少年少女たちへ

忘れないで 阪神・淡路大震災



だいじしん ばっせい 大地震の発生

へいせい 7 年 1 月 17 日、午前 5 時 46 分……… 突然の地震発生。

しんぶ 震度 7 という、これまでで最大級のゆれが観測されました。

わずか 20 秒程度続いた地震の力は、5,500 人を超える人の命をうばい、
20 万棟以上もの建物をこわしました。

神戸は美しい港町。(震災前に撮影したものです)

目次

1. 被災地を救うノ	2
2. ボランティアの力	12
3. 学校生活は?	20
4. 街が変わった	26
5. 地震の科学	29
6. 未来の防災の担い手	31

ひさいち すく 被災地を救う！

(1) いのち きゅうじょかつどう 命を救う救助活動

地震でこわれた建物の中に多くの人が閉じこめられ、生きうめとなりました。
生きうめとなった人たちを一刻も早く救い出すことが最も重要です。

ひがいじょうきょう がいさう 被害状況 (概数)

し しゃ
死 者



5,502名

どう ろ
道 路



9,403か所

か おく ぜんかい
家屋 (全壊)



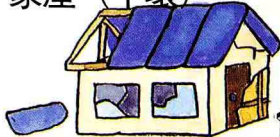
10万282棟

きょう
橋りょう



321か所

はんかい
家屋 (半壊)



10万8,402棟

がけくずれ

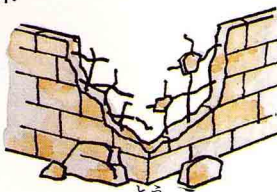


367か所

ぶんきょう し せつ
文教施設 (学校など)



766か所



ブロックべい等 1,385か所

(平成7年5月21日現在の即報値)

①市民の力で救い出した命

生きうめとなった家族や近所の人たちを救うために、皆が協力し、何とか救い出そうと努力しました。そして、市民の力でたおれた建物の下敷きになったたくさんの人たちが助け出されたのです。

また、中学生や高校生が、近くに住む一人暮らしのお年寄りを助け出した例もありました。



とうかいした家屋の下敷きになっている人を助けだそうとしている人々

②被災地の消防による救助活動、

そして全国からかけつけた消防の応援

重いガレキの下に生きうめになった人たちを救うため、地元の消防隊員によりけん命の救助活動が続けられました。そして、全国から救助隊がヘリコプターで応援にかけつけました。

しかし、激しい交通渋滞に巻きこまれ、被災地に到着するのにかなりの時間

がかかりました。人の命を助けることが最も大切なことであり、消防自動車が早く被災地に到着できるようにみんなで協力する必要があります。



連日の救助作業が続く消防隊員



③ 警察・自衛隊などの応援活動

地震発生当日から人命救助のため、全国からかけつけた応援も含め、たくさんの警察や自衛隊の人たちが救助活動にあたりました。

またその後も、被災地での交通整理、給水活動、ガレキの後かたづけなど、大きな被害を受けた被災地のために、さまざまな救援活動を続けました。



▲ 警察・自衛隊の活躍 ▶



(2) 火災と戦う

地震の直後から、あちこちで火災が発生しました。火災による被害の最も大きかった神戸市では、地震発生直後に少なくとも35か所で火災が同時に発生し、阪神地域で約300件の火災が起きました。

① 消火活動

一度にたくさんの場所で火災が起こったため、消防隊の数が足りません。また、地震発生と同時に水道が断水してしまい、消火栓から水が出なくなりました。

さらに、激しくなる一方の交通渋滞で、消防自動車が火災現場に近づくことさえ難しく、どんどん火災は広がっていきました。



あちこちから黒えんが上がる神戸の街（写真は神戸市須磨区周辺）

②火災の延焼をくいとめた町

水も出ず、消防隊も到着しない火災現場では、地域の人たちが協力しあって消火活動を行い、火災から町を守った地域があります。

川の水や防火水そうの水などをくみ、バケツリレーで消火しました。

日ごろから防災訓練に熱心に取り組んでいた地域では、このような住民による消火活動が多く行われました。



市民 自らの手で行った消火活動

防災講演を聴いて

埼玉県川越市立野田中学校 3年 開発 功仁さん

僕は、今年1月に起きた阪神・淡路大震災を、もう何年も前のように思っていました。

今日の防災講演を聴いて、忘れてはならないことだと強く感じました。先生の話で特に印象に残った内容は、長田区の消火のことと、身の守り方の話です。消火の話では、町内会長の一言でみなが集まったこと、ずっと水をくみ上げていた人が50才ぐらいの主婦だったことなど驚かされることばかりでした。みな、自分の町内を守りたかった一心で行ったことだと思います。もし、僕の町内でこのようなことがあった時、僕たちにできるかどうか心配です。

また、身の守り方は、とても勉強になりました。地震がきた時は、ただ体を小さくするだけだと思っていたけど、頭と顔の中心を守るということを学びました。もし地震がきてもこの学んだことを役立てたいと思います。

③^{ぜんこく}全国からかけつけた^{おうえんかつどう}応援活動

^{じ しんはっせいちよくご}地震発生直後から、^{しょう か}消火活動を^{しょうぼうたい ぞくぞく}応援するために、全国から消防隊が続々とかけつけました。

^{だんすい}断水により^{せん つか}消火栓が使えないために、何台もの消防自動車と何本もの消防ホースをつないでのばし、海や川から水をくみあげて^{おこな}消火活動を行いました。行きかう車にホースがふまれて^{やぶ}破れるなどして、消火活動はたいへんな^{くろう}苦勞をしました。



全国から応援にかけつけた消防車



^{めい}けん命の消火活動

しょうぼうおうえん じょうきょう へいせい
消防応援の状況(平成7年1月17日～3月31日)

※兵庫県外からの応援ののべ数

ヘリコプター

応援機数379機

救急搬送 90名



消防隊

応援人員数

32,395人

応援車両台数

7,628台



消防団

応援人員数

71,000人



(3)けがをした人を救う

①多くのけが人が発生

地震でけがをした人は約4万1,000人にのぼります。こわれた建物の中から助け出された人たちも、早く医師の手当てを受けなければなりません。

しかし、たくさんの病院が地震でたおれたり火災で焼けたりして治療を行うことができなくなり、けが人を乗せた救急車も交通渋滞で動くことができません。

けが人の手当てをする応急救護所がたくさん作られましたが、医師や看護婦の数も足りず、大混乱をしました。



けが人がおおぜい運ばれて混雑する病院 (神戸市西市民病院)

②空を駆けめぐったヘリコプター

地震によって大きなけがをした人の命を救うためには、できるだけ早く病院に運び、治療をしなければなりません。しかし、たおれた建物や火災などによって、道路をふさがれ、自動車ではなかなか目的地へたどり着くことができませんでした。そこで、空を飛ぶヘリコプターが大活躍しました。この災害で出動した消防・防災ヘリコプターは一番多い日で21機、そしてのべ460機にもなりました。(平成7年1月17日～3月31日)



ヘリコプターの活躍

2

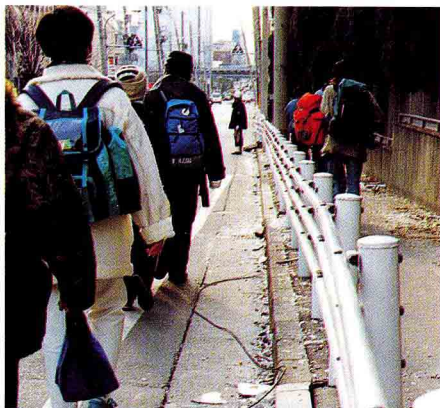
ボランティアの力

地震の被害がテレビや新聞などで報道されると、「被害を受けた地域でボランティア活動をしたい」という申し出が、全国から寄せられました。

最初のうちは、電車や電話や電気などのライフラインがストップしたままの被災地に、おおぜいのボランティアが全国から手伝いに來たので、とても混乱しました。

しかし、日数がたつにつれて、ボランティアの人たち同志でどのような活動をするべきかを話し合ったり、行政と協力し合ったりしながら、地震の被害を受けた人たちのためにいろいろな分野で活動を行いました。

そして、大学生や若い人たちが大活躍しました。全国から届く救援物資を分けて避難場所まで運んだり、こわれた家の後片づけの手伝いをするなど、若い力が大活躍をしました。



被災地へ向かう人々



被災地へ向かう人と車の行列

①医療

一度に多くのけが人が発生し、
 地元の医療機関も地震で建物や設
 備がこわれ、診療ができなくなっ
 てしまいました。全国から医師や
 看護婦が被災地かけつけ、けが
 をした人や避難場所^{ひなんばしょ}で病気になっ
 た人たちの治療^{ちりょう}を行いました。そ
 の中には、外国から救援^{きゅうえん}にかけつ
 けた医療チームもありました。



じゅん回健診^{けんしん}の医療ボランティア



避難場所^{ひなんばしょ}になっている保育園^{ほいくえん}で浴そう^{よく}の準備^{じゅんび}をする医師

②避難場所でのさまざまな生活支援

最も多い時には約32万人の人が、1,000か所以上の避難場所です。不自由な避難生活をしていました。

地震で電気や水やガスが止まり、水やガスは長い間使えませんでした。



ボランティア活動に参加して ①

テレビでは放送されなくなりましたが

東京都 大谷 志帆さん（学生）

私はボランティアに行った期間が、本当に短くて、ほとんど何もできませんでした。けれど、やはり、行ってよかったと思います。テレビで放送されているのと違う部分を知ることができたからです。

テレビでは、避難所での生活ばかり放送していたので、壊れかけている家にも住んでいる人がいるのを知りびっくりしました…。(略)

私達の仕事は主に対話活動でした。被災者の方々に声をかけ、引っ越しのお手伝いなどをしました。そんな中で、私達は一人のお婆ちゃんに荷物運びを手伝いました…。

本当に、被災者の方々は、親切でした。「こんにちわ」と声をかけると、「こんにちわは、ありがとう」と笑顔で答えてくれました。ありがとうと言われるほど仕事ができなかった自分がはかしくなるくらいでした。でも頑張らなければいけないという、被災者の前向きな思いが手にとるように感じられました。

そんな、前向きに、頑張ろうとしている人々の大変な生活は、まだ終わっていません。テレビでは放送されなくなりましたが、まだ続いています。それを、世のなかの人々に忘れてほしくありません。そして私も何かできることがないか、考えながら、少しでも役に立てるようにしていきたいと思っています。

ボランティアの人たちは避難生活を送る人たちに、水や食べ物、薬や衣料品を配ったり、暖かい食事を作って被災者の人たちに食べてもらいました。

また、音楽家の人たちが避難場所でコンサートを開いたり、全国からはげましや応援の手紙が寄せられるなど、苦しい避難生活を送っているたくさんの人たちをはげました。



たき出しのようす



外国人ボランティアによるたき出し



心なごむボランティアコンサート



ボランティア活動に参加して ②

自分にとってプラスになった経験

東京都 西沢 重年さん（学生）

僕は毎日神戸の様子をテレビで見ているうちに、力仕事ならできるからいってみようかなと迷っていた頃に、ちょうど友人に誘われたので、行くことに決めた。

大阪行きの新幹線のなかで、先に何日間か行ってきたその友人から神戸の事を聞いたときは、不安な気持ちでいっぱいになった。それは、力仕事はほとんどなく、対話活動が中心だといわれたからだ。（略）

活動に参加した二日目、話したくても話題がないから話せないことを悟った。僕はこの一週間しっかりと活動できるかと不安になったので、宿舎に帰ってから、配られたあらゆることに関して書かれたプリントや前から参加している人達に話を聞いたりして、なんとか間を開けず話せるくらいの知識を必死でおぼえた。

四日目に訪れた避難所で、「あなたたちボランティアの方がきて、話し掛けてくれることで、なんだか自分たちも頑張ろうと思う。」といってくれる人がいた。今まで自分のことで精一杯で、どんな風に向こうの人が受け取ってくれているのか考えもしていなかったが、この言葉を聞き、もっと頑張って自立しようという気持ちになる人が一人でも多く現れたらと思う、今まで以上にやる気がわいてきた。（略）

今回この活動に参加したことは、自分にとってとてもプラスになることばかりであったような気がする。見ず知らずの人々と協力して一つのことを行ったことや、心を込めて何かをすれば良い結果が返ってくることなどが良い体験として、これからもずっと役立つだろうと思う。



きゆうえんぶつし うん さぎょう
学生ボランティアによる救 援物資の運はん作業



ボランティアによる救 援物資の仕わけ作業

③災害弱者への支援活動（高齢者、障害者、外国人など）

災害が起きた時には、ひとりぐらしのお年寄りや身体の不自由な人、日本語がわからない外国人など、自分の力だけで安全に行動することが難しい人たちがいます。

そこで、外国人のために外国語のテレホンサービスで情報を伝えてあげたり、目の不自由な人が外出する時に手伝ったり、耳の不自由な人に手話通訳をしたり、お年寄りの話し相手になるなど、たくさんのボランティアの人たちが活躍しました。

for
foreigners
consult telephone
KOBE
078-360-8511
362-4558
362-4559

~~~~~HELP NETWORK~~~~~  
被災した障害をもつ人たちの  
情報を求めています！  
被災した人たちの間で、阪神大震災被災者救済プロジェクトを発足させ、  
被災した人で困っている人達をもつ人たちの救済活動を行っています。  
障害をもつ人や障害者でもボランティアを希望している方、障害者のたのしみや困り  
ごとを求めている方、一助を希望されている方など、私たちと相談ください。  
また、障害をもつ人の中には自分で電話ができない方や動けない方がいます。困りごとを  
お聞きの方や申し送りしたい方、思案をお聞かせ願います。  
今、被災した人で困っている人たちのため、生活、食料、生活を支援するために、他の  
関係機関などと協力して、できる限りの支援活動を行っています。

~~~~~HELP NETWORK~~~~~  
阪神大震災被災者救済プロジェクト
代表 高松市大震災 55-4
代表 高松市大震災 55-4
代表 高松市大震災 55-4
TEL 0142-45741 Fax 0142-45741

赤ちゃんのおり
洗いをサービスして
います (お湯)
く問い合わせ先
かんぱろう神戸
Tel 595-
場所: 中山キカトリック内
あけの星幼稚園
11:00~15:00

外国人のたのみの緊急電話による緊急援助を提供しています。
Emergency phone for foreigners
Sa Lahat Ng Mga Filipino (フィリピン語)
Para Los Extranjeros Habla Hispano (スペイン語)
Informations en Deutsch (ドイツ語)
Informação Geral em Portugues (ポルトガル語)
Trung Tâm Thảo Tin và đồng dục (ベトナム語)
外国人消息中心
06-941-4793
06-941-4699
FOREIGNERS' EARTHQUAKE INFORMATION CENTER

まち
街のあちこちにはられたはり紙



ろじょう かいてん わりょう りょういん
路上に開店した無料 青空理容院

ボランティア活動に参加して ③

復興への原動力

しずおかけんかわづ ちようしよくいん やまもと ひろお
静岡県河津町職員 山本 博雄さん

たお 倒れたビル、お 押しつぶされた車、ゆがんでひび割れてしまった道路、そして、避難
じよ 所で生活しなければならなくなった人たち……。はんしん あわ じ だいしんさい
阪神・淡路大震災によってもたらさ
れた惨状は報道機関からの情報だけでは伝えきれないすさまじいものでした。

私は、各地から送られてくる救援物資を仕分けし、各避難所の要望に合わせ救援物
資をトラックに積み込む作業を行いました。物資については、過不足が激しく、ジュ
ース等は余り、女性用下着は不足していたようです。そこでは、全国各地から救援に
やって来た人たちが一生懸命救援活動を行い、また、避難所ではボランティアの人た
ちが食事を作り被災者に配っていました。ここで感じたことは、ボランティアと被災
者が、ボランティアまかせ、被災者まかせというのではなく、避難所での生活をより
よくするという一つの目的のために一体となって協力しあうことが、大切だというこ
とです。

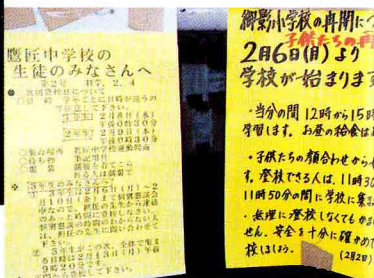
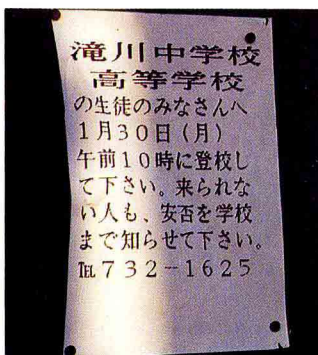
大きな災害では助け合う心が復興の原動力となります。私も、この気持ちを忘れない
ようにしたいと思っています。

せいかつ 学校生活は？

① 児童・生徒の安否がなかなかわからない

被災地では電話も通じず、交通機関も止まったままでした。学校の先生たちは、児童や生徒が無事だったかどうか、なかなか確認することができませんでした。

「学校に連絡をして下さい」、「〇月〇日〇時、学校へ集まってください」などと書かれたはり紙が、避難場所や、電信柱、電話ボックスなどにたくさんはられていました。



児童・生徒の安否を気づかう学校からのはり紙



②危険な通学路

毎日通っていた通学路が、地震によってたいへん危険な場所になってしまいました。ビルの窓ガラスがこなごなに割れ歩道に飛び散ってけがをした子どももいました。また、何百キログラムもある自動販売機がたおれたり、こわれた家のかべや柱、くずれたブロックべいが道路をふさいで通れなくなっていました。



避難所になった学校

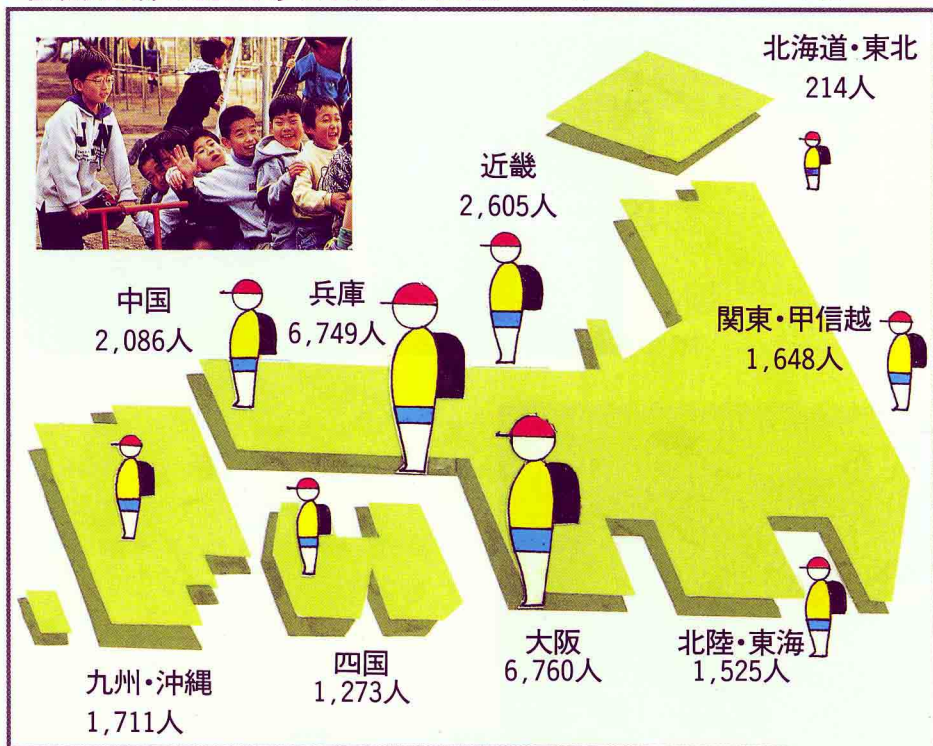
③ 2 万人以上の児童・生徒が全国へそ開

地震で校舎がこわれたり、また、学校が家を失った人たちの避難場所となったため、避難してきた人たちで体育館や教室がいっぱいになり、授業を再開することができなくなりました。

また、家がこわれたり家族が地震で亡くなったりしたために、転校をしなければならない子どももいました。そのため、約2万5,000人の児童や生徒が、他の地域の学校に転入し、学校生活を続けました。そ開先は北海道から沖縄まで全国47都道府県にわたっています。

ひ きい

被災地域の児童等の受け入れ数 (文部省調べ 2月10日現在累計)





こうべから かながわけんやまきたちょう てんにある
神戸から神奈川県山北町に転入してきた小
学生。ひき受け先のあたたかい支援の中で



④^{たす}助けあい・はげまし

避難場所^{ひなんばしょ}となった学校では、たくさんの避難者^{しや}が何か月にもわたって生活^{せいかつ}をしています。

避難場所では多くのボランティア^{てだす}が手助けをしてくれましたが、避難している人たち^{どうし}同志の助けあいが行われました。子どもたちも、お年寄り^よの世話^{せわ}をしたり、食事^{しょくじ}を配^{くば}る手伝い^{てつだ}をしたりして、活躍^{かつやく}しました。



避難所で大人たちの手伝いをする小学生

地震の被害により、教科書や学用品などをすべて失ってしまった子どももたくさんいました。こうした子どもたちを支援するために、教科書が無料で配られたり、学用品などの救援物資が世界中から送られてきました。

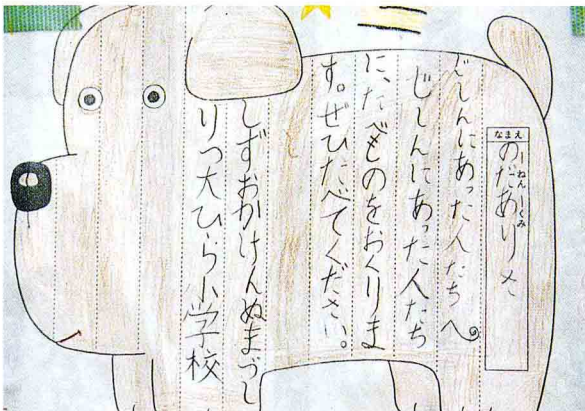
また全国の子どもたちから、はげましの作文もたくさん寄せられ、不自由な避難生活を送る人たちを勇気づけました。



バレンタインチョコをおくられた避難所の子どもたち



右上：カナダ大使館からおくられたたくさんの本
右下：ランドセルを失った子どもたちへ



全国からおくられたはげましの手紙（写真は静岡県沼津市立大ひら小学校の児童より）

まちか 街が変わった

～1995年1月17日、まちか
街はどのように変わったか～

いろいろな地形の上にさまざまな建物が建てられて私たちが暮らす街はできています。1995年1月17日の地震によって、高速道路や鉄道は予想もつかないほどの大きな被害を受けました。

また、神戸市・^{あまがき}尼崎市・^{にしのみや}西宮市・^{あしや}芦屋市・^{たからづか}宝塚市・^{あわじしま}淡路島の^{ほくなん}北淡町など多くの市町のたくさんの家やビルがとうかいしたうえに、大規模な火災が発生し、街を焼きつくしてしまいました。

そして、火災や建物のとうかいによってライフラインといわれるガス・水道・電気・電話がすべて使えなくなったところもたくさんありました。

昨日と同じ朝をむかえるはずだった街は、写真のように変わってしまいました。

としけんちくぶつ 都市建築物の被害





ビル、住宅、マンションの被害
じゅうたく



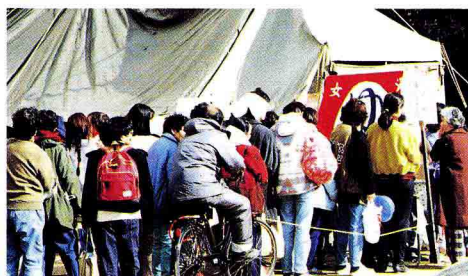
火災の被害



どしゃきがい
土砂災害の被害



じしん じ
地震の一次被害から二次被害



①地震はこうして起こる

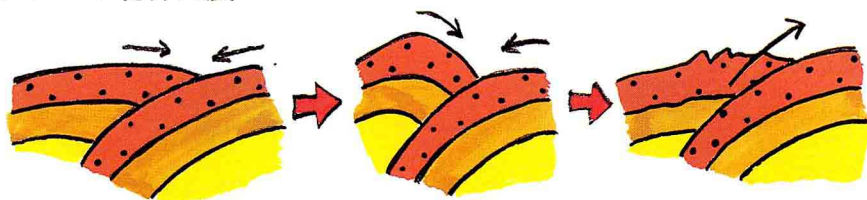
地震にはプレート境界地震とプレート^{ない}内地震があります。地球の表面は太平洋プレートやユーラシアプレートなど10枚程度のプレート^{きょうかい}からなっています。そのプレートの境界^{きょうかい}では、一方が他方の下にもぐりこんでいます。このもぐりこみが極^{きよく}限^{げん}までいくと元にもどろうとします。その振動^{しんどう}で地震が起きます。

また、プレート間がおし合^あったり引^ひっぱり合^あったりしてプレートに力^{ちから}が加わり、ひずみが生^はじることがあります。このひずみを元の状^{じょう}態^{たい}にもどそうとするとときに起^{おこ}る振動^{しんどう}で起^{おこ}るのがプレート内地震^{ちく}といます。特に断層^{だんろう}のずれが起きやすい部分を「活断層」といいます。

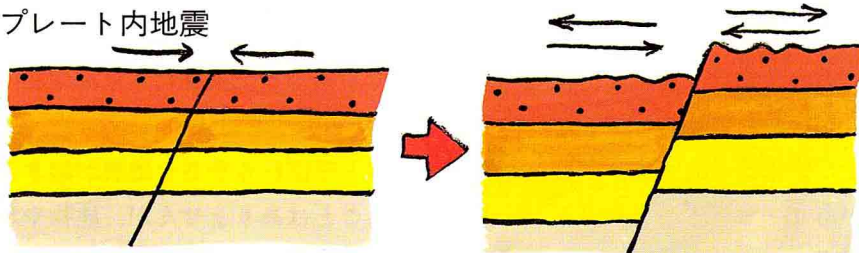


活断層が動き、大きくくずれた地面

プレート境界地震



プレート内地震



②地震大国・日本

日本列島は環太平洋地震帯に属し、地震多発地帯となっています。日本で1年間に観測される体を感じる地震は500～1000回ほどですが、場所によって大きな差があります。

しかし、火山性地震のほかに、阪神・淡路大震災で明らかにされたように、地震を起こす活断層は全国に2000本以上あると言われています。

③震度とマグニチュード

地震の大きさはマグニチュード(M)で表します。これは、震源(地震が発生した位置)でどれくらいのエネルギーが放出されたかを示します。

また、震度はそれぞれの場所で人が感じるゆれのことです。したがって、大きな地震でも震源地から遠く離れていれば、震度は小さいということになります。

| | | | |
|---------------|------------------------|---------------|---|
| 震度
0
無感 | 人体に感じないが、地震計には記録される。 | 震度
4
中震 | 歩行中のすべての人が感じ、家屋が激しくゆれて、不安定な花びんなどは転とうする。 |
| 1
微震 | 振動に敏感な人や静止している人が感じる。 | 5
強震 | 家具などがたおれ、かべや石がきなどがくずれることもある。 |
| 2
軽震 | 大多数の人が感じ、障子や戸がわずかにゆれる。 | 6
烈震 | 多くの人が立っていられず、約30%の家屋がとうかいし、がけくずれや地割れが生じる。 |
| 3
弱震 | 歩行中の人にも感じ、家屋や木々がゆれる。 | 7
激震 | 30%以上の家屋がとうかいし、山くずれ、地割れ、断層が生じる。 |

④予知と余震

地震の予知は、まだ基礎研究を重ねている段階です。現在は「東海地震」の予知が行われているだけです。

また、本震のあとに、同じ震源域内で余震と呼ばれる小さな地震が起きることがあります。本震より大きなものが起きることはありませんが、建物やがけが弱くなっていてくずれる危険性があるので、余震も十分注意が必要です。

みらい ぼうさい にな 未来の防災の担い手

——少年消防クラブの活動——

①少年消防クラブとは？

少年消防クラブは、火災を^{かさい}予^よ防^{ぼう}する^{ぼうぼう}方法や火についての^{もんだい}問題を身近な生活の^{みぢか}中で^{せいかつ}見^{けん}つ^{きゅう}け^くし^う出し、それを^{けんきゅう}研究したり^{がくしゅう}学習することによって、いろいろな知識を^{ちしき}学^{まな}ぶことを目的に、自由に参加できるクラブです。参加している人はだいたい小学5年生から中学3年生までの少年少女です。

現在、少年消防クラブは全国で約6,200団体結成されていて、約54万人の^{げんざい}人^{ぜんこく}た^{やく}ち^{だんたいけっせい}が少年消防クラブ員として、災害に強いまちづくりのための活動を行っています。



②どのような活動^{かつどう}をしているの？

少年消防^{しょうぼう}クラブの活動は、クラブによっていろいろ特^{とく}ちようがあります。しかし、火災^{かさい}の予防^{よぼう}や防災対策^{ぼうさいたいさく}を学^もぶという目的^{もくてき}は同じです。

たとえば、防火^{ぼうか}や防災^{ぼうはん}に関する研究発表会^{けんきゅうはつぎょうかい}を行^{おこな}ったり、実地^{じち}見学^{けんがく}をしたり、ポスターなどを作^はって張^はり出^だしたり、夏休み^{なつやすみ}には体験学習^{たいけんがくしゅう}をかねてキャンプや宿泊訓練^{しゅくはくくんれん}をするクラブもあります。

さらに、ひとりぐらしのお年寄^{おとし}りの家^{いえ}を回^{まわ}って防火訪問^{ぼうはんもん}をしたり、大きな災害^{さいがい}の後^{のち}には募金活動^{ぼきんかどう}をしたりと、地域^{ちいき}の人^{ひと}たちのために役立^{やく}つボランティア活動^{かどう}をしているクラブもたくさんあります。

また、今回の阪神・淡路大震災^{はんしんあわじだいしんさい}の教訓^{きょうくん}を生^なかして、多くのクラブで実せん^{じつ}的^{てき}な防災訓練^{ぼうはんくんれん}を行^{おこな}いました。

